

錦繡の蔵王・山寺・茂吉館

香川の句友との吟行より

新野^{にいの}祐子

祓川わたり善人月夜茸

善人のあかし山葡萄と出会う

さわやかや讃岐の衆の心意気

雲海のかくまで広き眺めかな

火口湖の底に秋思を見つけたり

険谷より湯気立つ不思議ましら酒

異邦人憩う山寺天高し

野紺菊だれをも受け入れ五大堂

青げらの玻璃におどろく茂吉館

芭蕉考遺しひっそり銀漢へ
悼 天志さん

* 集合場所に現れなかった天志さんは、亡くなっていたことが後に判った。